

第3学年国語科学習指導案

単元名 世界の民話のおもしろさを紹介しよう

教材名 「木かげにごろり」 金森 襄作 作 (東京書籍 小学校3年下)

1 単元について

(1) 児童観

児童は、2年生の3学期に、「かさこじぞう」の内容を読み取り、劇にして表現したり、他の昔話を讀んだりして、日本の民話を味わう学習を行っている。3年生の4月に取り扱った教材「すいせんのラッパ」では、場面の様子や人物の気持ちを叙述から読み取り、音読で表現する学習を行っている。6月に取り扱った教材「ゆうすげ村の小さな旅館」で、人物像を叙述から想像したり、場面や出来事を基にまとめたりして、物語のあらすじをまとめる学習を行っている。さらに、物語のしかけに気付かせることで、物語の特徴にも触れている。

そこで本単元では、既習の知識・技能を生かしながら民話を読み、そのおもしろさを味わいながら他の民話への関心を高めていくようにしたい。

(2) 教材観

教材文「木かげにごろり」は、百姓たちが機転を利かせて欲張りな地主を懲らしめるという朝鮮半島に伝わる民話である。欲張りな地主に困っていた百姓たちが、地主から木かげを買い取ったことをきっかけに互いの立場が逆転し、終末では、地主の家の板の間やごちそうまでも百姓たちのものになってしまう。起承転結がはっきりしており、木かげが伸びるにつれて百姓たちの立場が強くなっていくところから、場面の移り変わりをとらえやすい。木かげをめぐる地主と百姓のやり取りや、地主が木かげを売ったことを後悔する場面などはとても滑稽であり、民話のおもしろさを感じ取らせ、紹介することに適した教材である。

(3) 指導観

本単元では、民話の紹介カード作りを通して、民話の内容を紹介する言語活動を取り入れる。紹介カードを用いてあらすじやおもしろかったところを紹介する活動を通して、場面の移り変わりや登場人物の様子や気持ちの変化を読み取らせたい。

単元導入時に、世界の民話を読み、カードに書いて友達に紹介するという目的意識と相手意識をもたせる。「木かげにごろり」の紹介カード作成の過程では、あらすじやおもしろかったところを書く活動を通して、場面の移り変わりや登場人物の様子の変化を読み取ることができたかどうかについて自己評価を取り入れていく。

あらすじをとらえさせるためには、まず、地主や百姓たちの行動や会話に即しながら、それぞれの性格を押さえ、二者の関係や物語上での役割を考えながら読ませていきたい。次に、時間の経過や木かげの長さ、地主と百姓たちの立場の変化を関係付けて読ませていきたい。また、民話のおもしろさを感じ取らせるために、地主や百姓たちの問答の繰り返しなどの表現のおもしろさや展開の意外性に着目させたい。

第二次で「木かげにごろり」紹介カードを作成し、場面の移り変わりや登場人物の行動や会話に即して、様子や気持ちの変化を読み取り方を習得させ、第三次で他の民話を読んで紹介カードを作成する際には、そのことを活用しながらあらすじやおもしろかったところを紹介することができるようにしたい。

このように、民話の内容を紹介する言語活動を通して、児童に民話の読み方を学ばせたい。さらに、その読み方を生かし民話のおもしろさを味わわせ、児童の読書生活の広がりにつなげていきたい。

2 単元の目標

友達に民話のおもしろさを伝える紹介カード作りを通して、場面の移り変わりに注意しながら人物の心情や行動をとらえたり、民話のおもしろさを感じ取ったりすることができる。

3 単元の評価規準

ア 国語への 関心・意欲・態度	世界の民話に興味をもち、目的意識をもって読もうとしたり、「紹介カード」で紹介しようとしていたりしている。
イ 読む能力	1 民話「木かげにごろり」のおもしろさを紹介するために、場面の移り変わりに注意しながら人物の心情や行動をとらえて読んでいます。 【C読むこと(1)ウ】 2 紹介したいと思う世界の民話について、選んだ理由を明らかにしながら読んでいます。 【C読むこと(1)カ】
ウ 言語に関する 知識・理解・技能	「紹介カード作り」にあらすじやおもしろさを記述することを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)ア(ア)】

4 指導と評価の計画（全9時間）

次	時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価とその方法
事前	課外	○ 民話の読み聞かせを聞いたり、自分で民話を読んだりする。	・ 民話に興味をもつように、学校図書館や地域の図書館から民話を集めて、特設の学級・学年文庫に置き、国内外の民話の読み聞かせをしたり、自由に読ませたりする。	
一	1	○ 紹介カードに書く内容について話し合う。	・ 紹介する形式やカードにどんなことが書いてあると読みたくなるのかを考えさせる。 ・ 「木かげにごろり」を読んで紹介カードを作ることを伝える。 ・ 朝の読書の時間などに学級文庫の民話を読み、紹介したい本を選んでおくように促す。	ア 民話に興味をもち、学習の見通しをもって進んで読もうとしている。 〔発言及びワークシートの記述〕

	2	○ 全文を通読し、学習計画を完成させ、学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 叙述から、地主や百姓がどんな人物かをとらえさせる。 ・ 「木かげにごろり」の学習では、木かげ、登場人物の順に読み進めていくことを確認する。 	イ 登場人物の人物像を叙述から想像することができる。 [ワークシートの記述]
二	3	○ 木かげの伸びと場面の移り変わりを関係付けて読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時を表す言葉に着目させ、時間の経過をとらえさせる。 ・ 木かげの伸びを表す言葉に着目させ、「時間（季節）」「木かげののび」の変化をとらえさせる。 	イー1 時や木かげの伸びを表す言葉を見つけ場面の様子をとらえることができる。 [ワークシート・紹介カードの記述]
	4	○ 百姓たちや地主の様子と場面の様子に関係付けてとらえる。 ○ 民話のおもしろさについてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 叙述を基に百姓や地主の言動と木かげの伸びに関係付けて読ませ、場面の移り変わりと人物の様子をとらえさせる。 ・ 物語の内容や表現上のおもしろさについて自分なりに考えさせる。 	イー1 場面の移り変わりと人物の様子に関係付けながら読み、物語のおもしろさを感じ取ることができる。 [ワークシート・紹介カードの記述]
三	5	○ 紹介カードの書き方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が作成した民話の紹介カードを例示し、あらすじやおもしろかったところの書き方の様式を考えさせる。 	ウ 紹介カードに適した内容になっているか見直すことができる。 [ワークシート・紹介カードの記述]
	6 7	○ 選んだ世界の民話の紹介カードを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時に話し合ったことをもとに書かせる。 ・ 完成したカードは黒板に掲示し、他の児童への参考にさせる。 ・ 次時に行う紹介の仕方を提示し、紹介の見通しをもたせる。 	イー2 学習したことを生かして世界の民話を読み、あらすじやおもしろさをとらえることができる。 ウ 様式に合わせて書くことができる。 [紹介カードの記述]
	8 (本時)	○ カードを用いて本を紹介し合い、感想を述べ合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループで、本を見せながら紹介させる。紹介を聞いたら、感想を書き交流させる。 ・ 紹介ができたことへの達成感を味わわせ、交流のよさに触れさせる。 	ア 友達が紹介を聞き、他の民話にも興味をもっている。 [メッセージカードの記述]
	9	○ 単元を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの学習を振り返り、学習の感想を書かせる。 ・ 学習したことについて自己評価を行わせる。 ・ 時間に余裕があれば、児童が紹介した本の中から、読み聞かせを行い、世界の民話への関心を高める。 	ア 世界の民話に対して関心が高まり、友達が紹介した民話を読もうとしている。 [ワークシートの記述]

5 本時の指導（8／9）

(1) 目標

○ 完成した「世界の民話紹介カード」を用いてグループで民話を紹介し合い、友達が選んだ民話に興味をもつ

ことができるようにする。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点
1 本時のめあてを確認する。	○ 紹介する本と作成した「世界の民話紹介カード」を机上に準備させておく。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">世界の民話をみんなにしょうかいしよう</div>	
2 紹介の進め方を確認する。 ① 紹介者は民話のおもしろさが伝わるように紹介をする。 ・ 効果的な本の提示 ・ スピーチの仕方（声の大きさ、姿勢、視線等） ② 聞き手は、紹介された本のあらすじやおもしろかったことに関してメッセージカードを書く。 ③ 紹介終了後、メッセージカードを相手に渡す。	○ 前時に提示していた紹介で、教師が「へらない稲束（朝鮮民話）」を紹介する。 ○ 紹介をする際に、これまでに学習したスピーチの仕方を生かすように確認する。 ○ 教師の紹介例を聞いた児童の感想を板書し、グループでの交流の参考にさせる。 【期待する感想の言葉】 ・～知りたい　・～読んでみたい　・なぜ～
3 選んだ民話の紹介をする。 ① グループ別で紹介を行う。 ・ 生活班などで小グループに分かれ、それぞれのグループの中で全児童が発表する機会をもつ。 ② グループの代表者が学級全体の場で紹介を行う。	○ うまく感想が書けない児童に対しては、教師が聞き取りをしながらメッセージカードを書かせる。 ○ 早く紹介が終わったグループは、紹介を聞いた本を読むよう指示する。 ○ グループ別の紹介が終わった後に、数名に全体の場で紹介する機会をつくり、多くの民話のおもしろさに触れさせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 【評価】 ア 世界の民話のあらすじやおもしろさに着目し、興味をもっている。[メッセージカードの記述] </div>	
4 友達からもらったメッセージを読み、紹介し合った感想を発表する。	○ 友達が紹介をしっかりと聞いてくれたことを押さえ、交流することのよさを味わわせる。 ○ 紹介し合った感想を発表させる。
5 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を確認する。	○ 友達から紹介されて興味をもった本をこれから読んでいくように促す。 ○ 学習計画表で、次時は単元のまとめをすることを知らせる。